

リーグ化 好事例紹介

香川県サッカー協会

【報告者】長尾文博 (社) 香川県サッカー協会 第4種委員長

プロローグ

香川県は関西国際空港のできた大阪府に抜かれ、日本一面積の狭い県となった。その狭さのメリットとは、県内のどこでサッカー大会が開催されても、どの時間帯に試合が組まれても苦もなく参加でき、移動距離をあまり気にしないことである。

香川県の少年サッカーは「高松市」を一つの核とし、県内西側半分を「中讃・西讃地区」、高松市の東側を「東讃地区」とし、従来より香川県内を三分割してのサッカー文化が醸造されてきた。従来より高松市には高松市ジュニアサッカーリーグ戦があり、中讃・西讃地区には中・西讃地区ジュニアサッカーリーグ戦が、東讃地区では東讃地区ジュニアサッカーリーグ戦があり、県内3つのリーグ戦が存在してきた。この地域リーグ戦とは別に毎年10月から翌年の2月にかけて全県一区の香川県ジュニアサッカーリーグ戦を実施している。

全県リーグについては10月初旬にU-12とU-10のリーグ戦を同時スタートし、12月初旬まで続く。またU-11のリーグ戦については翌年1月から2月中旬にかけて実施している。これは少子化の影響でU-11の選手を混ぜてU-12のチームを構成しなければならないチームがほとんどであり、U-12とU-11の同時開催には無理があるからである。このU-11リーグの上位3チームが翌年度4月に実施される「JA全農杯チビリンピック小学生8人制サッカー四国地区予選」に進む。

2009年度・春

JFAからの「年間を通じたリーグ戦」実現への依頼を受け、香川県FA第4種委員会としても現在ある地域リーグと全県リーグをそのまま実施すれば事足りると安易に考えていた。中・西讃地区、高松地区とも地域リーグで7試合程度をすでに実施しており、8試合程度を実施する全県リーグと併せて、JFAの提唱する「年間を通じて14試合以上のリーグ戦」という提案を十分網羅すると思ったからである。しかしここで問題が起こったのである。

上記県内3地域のうち、東讃地区にはサッカーチームが6チームしかなく、この地区での地域リーグで7試合以上を実施するのは無理があるのである。東讃地区以外からは「東讃地区はホーム&アウェイで実施すればいい」「東讃地区は外して申請すればいい」といった意

見が出されたが、本音は皆、現在ある既存の大会スケジュールを変更したくないのである。第4種委員会としてこのテーマ克服に向け何度も話し合ったが、「JFAに対して、リーグ戦実施に向け、最初から申請ありきの考え方をやめよう」「安易な解決策はしたくない」「どうせなら県全体でこの問題に対応しよう」というように有意義な意見が多く出され、2009年度一年間を使い、全県的な改革を討議・検討することにし、正式な年間リーグ戦のスタートを2010年4月とすることに決定した。

2009年度については既存のリーグ戦をJFA申請対象とすることも十分可能であったが、そのことにより今後発生するであろう自由な発想の阻害(固定観念)を恐れ、申請を取り止めた。

2009年度・夏

5月から7月にかけて、第4種委員会で数多く討議を繰り返し、ナショナルトレセンコーチ四国担当チーフの意見も聞きながら、まず「年間を通じたリーグ戦」立ち上げにあたり、香川県として前期・後期の2期制とすることを決定した。また、前期を「地域リーグ」、後期を全県一区の「全県リーグ」とすることも決定した。次に「地域リーグ」と「全県リーグ」の関連性に対しては対戦成績による戦績リンクも併せて決定された。

地域リーグ立ち上げに対してはチーム数の少ない東讃地区の扱いに対して苦慮したが、最終的には東讃地区と高松地区を統合してリーグ戦を実施し、従来の中讃・西讃地区ジュニアサッカーリーグ戦と併せ、県内を2地域に分け前期地域リーグを形成することとした。東讃・高松地区リーグ戦立ち上げに対しては高松地区にて従来から開催してきた「高松市ジュニアサッカーリーグ戦」を解消することとした。同大会をサポートしてきたスポンサーに配慮し、スポンサー名を残した形での3日間大会を別日程で立ち上げることで対応ができた。この場を借りて「年間を通じたリーグ戦」立ち上げに配慮していただいた高松市FAの人々には心から感謝したい。

もう一方の地域である中讃・西讃地区では従来から未登録チームであってもリーグ戦に参加できていたのであるが、未登録チーム代表者に対して加盟のメリットを辛抱強く説明し、理解の上加盟してもらうことで解決できた。こうして香川県内2地域開催としての「前期リーグ」、従来型の「全県リーグ」を併せた形での「年間を通じたリーグ戦」

全体像が固まった。

従来から実施している10月スタートの全県リーグについては、全県一区で予選リーグを経てその成績上位14チームによる決勝トーナメントを実施してきた。今回この決勝トーナメント部分をリーグ戦とは分離し、別大会として「香川県ジュニアチャンピオンシップ」を立ち上げることとした。出場チームは「後期全県リーグ」の成績をリンクさせ、戦績上位チームによるトーナメント戦を実施する。これについては「全日本少年サッカー大会」が冬休み開催に移行した場合に、この大会を「全日本少年サッカー大会香川県大会」に容易にスライドすることをイメージした。このトーナメント戦を含め、年間スケジュールづくりに着手したのである。

2009年度・秋

年間スケジュール策定にあたり、各県大会・地域大会・チーム招待試合・トレセン活動等についての開催基本概念をつかった。

1カ月を4週に分け、

- 第1土日：リーグ戦実施
- 第2土日：リーグ戦実施（基本はリーグ戦実施であるが、チーム招待試合等がある場合は今後この第2土日実施に向けスケジュール調整を実施する）
- 第3土日：リーグ戦実施
- 第4土日：トレセン活動（県トレセン、トレセンマッチデー等は年間を通して第4土日実施に固定する）

以上を基本コンセプトとして年間スケジュールを作成した。このスケジュールには県下3地域でリーグ戦とは別に実施されてきた各種大会等についても無理のない実施スケジュールを第4種委員会主導のもと開催日程も含め、調整ができた。

次にどの年代のリーグ戦を実施するかに議題を移した。

香川県では従来からある全県リーグの中で、U-12・U-11・U-10の3学年カテゴリーによるリーグ戦を実施してきた。今回の「年間を通したリーグ戦化」構想の中で、前期地域リーグも含めどの学年でリーグ戦を実施するかで討議を重ねたが、従来から3学年で全県リーグを実施してきた経緯もあり、やはりU-12・U-11・U-10の3学年カテゴリーによるリーグ戦化実施に向け、体制を整備することとした。

「前期地域リーグ」実施に際しては、

- 土曜日：U-11・U-10各リーグ戦実施（U-12のリーグ戦は実施しない）
 - 日曜日：U-12・U-10各リーグ戦実施（U-11のリーグ戦は実施しない）
- 以上を決定した。これは少子化でU-12とU-11それぞれの少年団チームに参加しているU-11の選手と引率指導者の負担軽減のためである。また、
- U-11・U-10各リーグ戦は8人制（審判1人制）
 - U-12リーグ戦は11人制（副審は相互審判：試合実施チームから各1名。これにより引率指導者1名でも大会参加が可能となる）

以上も決定した。

香川県ではU-11・U-10各カテゴリーについては従来から8人制を実施しており、U-12についても8人制移行の場合でも柔軟に対応できると考える。

年間スケジュールは以上の全体像に併せ、指導者講習会・キッズプログラム等の開催予定日等も加味し、技術委員会・女子委員会・キッズ委員会との事前調整を経て完成した。今後予測されるであろう、実際の対戦日程作成に対しては、前期地域リーグ戦日程作成時に各ブロック主管チーム（ブロック長）に日程作成に対するすべての権限を委譲することとし、前記の各約束事を前提に柔軟に対応できる体制構築を目指した。

2009年度・冬

12月、全体構成・運用ルール・全体スケジュール・各種Q&A集等をそろえ、加盟全チーム代表者参加による「第4種委員会代表者会」を迎えるのである。

賛成・反対、多くの意見が寄せられたが、

- 年間を通したリーグ戦開催
- U-12の8人制移行を含めたU-12・U-11・U-10の3学年カテゴリーによるリーグ戦化実現
- トレセンを含めた年間スケジュールの運用、リーグ戦実施曜日の決定
- 戦績完全リンクによる「前期地域リーグ」と「後期全県リーグ」の実施
- 「後期全県リーグ」での戦績リンクによるトーナメント大会「香川県ジュニアチャンピオンシップ」の実施
- 「全日本少年サッカー大会」の冬休み開催を見越した「香川県ジュニアチャンピオンシップ」の「全日本少年サッカー大会香川県大会」への移行方針

以上が承認されたのである。



2009年度・春

4月、すべての準備を整え「2010 ポカリスエット U-12 サッカーリーグ in 香川県」がスタートした。約1年を費やした「年間を通したリーグ戦化構想」であるが、リーグ戦参加のため例年以上に登録選手数が増加傾向にあると聞く。香川県のサッカー文化発展のため、このリーグをより良いものにつくり上げたいと考える。

このリーグ戦を通し、

- 自ら考え判断してプレーする選手を育成する
- 選手に失敗を経験させながら育てていく
- 香川県独自のリーグ戦文化を育てる
- リーグ戦を通じ、香川県下の指導者の資質向上を目指す

そして

- 世界に通用する選手を育成する
以上を達成したいと考える。

まだリーグ戦は始まったばかりである。その内容・形態がベストであったかどうか、答えは出ていない。今後発生するであろう数々のリスクに挑戦しながら、真剣なリーグ文化の定着と指導者の資質向上を同時に達成したい。

最後に「2010 ポカリスエット U-12 サッカーリーグ in 香川県」立ち上げのためご尽力いただいた、ナショナルトレセンコーチ四国担当チーフ、JFA技術委員長および技術委員にはこの場を借りて深く感謝したい。

広島県サッカー協会 広島県FAアドバンスリーグの成果検証

【報告者】香川清司 (財)広島県サッカー協会 ユースダイレクター

広島県の取り組み

近年、中国地域・広島県の2種年代のチームがある程度の力を全国大会でコンスタントに発揮できるようになっている。その要因の一つにリーグ戦の充実があるのではないかと考え、ユースダイレクター研修でレポートさせていただいた。ここ最近の全国大会出場チームの活躍は、個々のチームの指導者・選手の努力の賜ということは当然であるが、プリンスリーグの好影響、さらには、充実しつつある広島県ユースリーグ(アドバンスリーグ)もその一助になっているのではと思いたったからである。

広島県ではJFAの推進するリーグ戦の在り方を早くから研修し、全国の先進地域の取り組みを常に参考にしながら、試行錯誤を進める展開がなされている。

リーグ戦実施前後の比較

別掲の表は長期にわたる部制のリーグ戦が始まる前と始まった後の高体連の県大会の勝ち上がりの状況を比較したものである。具体的には、リーグ戦への参加校も増加し、定着してきた感のある2008年度県新人大会から2009年度の総体県予選の結果(選手層が同一のため)とそれ以前の大会の勝ち上がりに関する比較数値である。リーグ戦実施前の値は前回大会の単純結果との比較なので最近の結果との比較は正しくないかもしれないが、傾向はうかがえるのではないかと考える。

比較できるとすると、ベスト4レベルがプリンスリーグ出場チーム、

ベスト8～16が県リーグI部のチームレベルになり、県大会出場チームが県リーグII部～III部上位チームになると思う。昨年度の県大会において、リーグ戦上位の部が下位の部に敗退することが少なくなってきたことが分かる。これはここ2年間での部制・入れ替えにより、リーグレベルの整合性がとられてきていると判断できる。つまりリーグ戦のレベルが県大会トーナメントにおいてもそのままチーム力に反映している良い傾向になっていると考えられる。

広島県から全国に出場するチームはプリンスリーグ中国I部のチームからになっていて、リーグ開始前はそのレベルのチームと試合できないことを危惧する意見が多く、県内リーグでも例外ではなかった。しかし、県リーグで拮抗した多くの試合(I、II、III部のリーグ戦はす

